

第2 実践事例

事例1 入学時の不安を払拭し、自信を持って中学校生活を送ることを目指す事例

- 学年 知的障害特別支援学級（1年）
- 指導内容及び指導の形態 自立活動
- 事例のポイント
 - ①生活単元学習等、他教科との連携を図り、自立活動で学習した内容をより効果的に般化できるようにする。
 - ②見通しをもち、安心して取り組むことができる環境設定を工夫する。
 - ③それぞれが達成感を感じることができるよう、個別のねらい、課題の設定を明確にする。
 - ④ICT端末を用いた教材・教具の工夫や学習環境の整備を行う。

1 主題名 「自信をもって中学校生活を送ろう」

2 主題設定の理由

本学級は、1年生男子3名（A、B、C）で構成されている。3名とも知的障害を主障害としており、Cは自閉症スペクトラムを併せ有している。うち2名は中学校から教育形態を変更しており、小学校においてAは通常の学級で、Cは自閉・情緒学級で学習活動をおこなってきた。Aは、自ら進んで元気のよい挨拶・返事ができる。また、体を動かすことや歌を歌うことが得意である。しかし、進級するにつれて、登校が難しくなった。学校生活の中では学習場面における不安が特に強い。また、「わからないこと」「できないこと」を自分から教員に伝えることが難しく、声を掛けられるまで待っていることが多い。Bは小学校において積極的に友達とコミュニケーションを取り、過ごしてきた。しかし、その中で、他者に決定権を委ねて過ごすことが多かったため、自発的に考え、自主的、主体的に活動する経験に乏しく、特に自分自身の考えを表出することに對し、自信のなさや不安がある。Cは読書が好きで、学習の場面においては、積極的に自分の考えを発表することができる。しかし、環境の変化に適応することが苦手であり、学校生活においては、予定変更によりパニックになってしまうことがある。また学習場面においては、解答の誤りを指摘されることが苦手で、興奮が抑えられないことが多々ある。3名とも自己肯定感が低いと感じられる場面が、学校生活でみられる。しかし、「多くの仲間と楽しく過ごしたい」「できることを増やしていきたい」と中学校生活への期待も大きい。

そこで、本主題では、コミュニケーションを中心とした活動を通して自己の課題の改善・克服を図るとともに、できたことを適切に称賛することで生徒の自己肯定感を高めていく。なお、自己肯定感を高められるよう、特に、次の3点に意識して取り組む。①この時分の生徒は、自己理解が深まりつつあるため、できたことは、適切かつ具体的に称賛する。②「新しくできるようになったこと」だけでなく、「継続してできていること」についても称賛する。③集団の中で「できた」「わかった」を実感させ、自信をもち、自分らしさを大切にできるようにする。なお、本主題は、生徒同士のコミュニケーションを中心に設定したため、集団での活動が多くなっているが、コミュニケーション、自己肯定感ともに、個々に応じた課題を設定している。

中学校1年生では、生活単元学習において、「ぼくたち中学生になりました」という学習を設定し、小学校の先生との交流を計画している。生徒3名それぞれが成長した姿を見せたいと張り切っている。

事例のポイント①

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際に、総合的に学習するものである。本主題においては、生活単元学習と密接な連携を図り、自立活動で学習した内容をより効果的に般化できるようにする。

3 生徒の実態

生徒の実態	
A 1年	自ら進んで元気のよい挨拶・返事ができる。しかし、困り感を自分から伝えることが苦手である。また、音読が苦手である。体を動かすことや歌を歌うことが得意である。
B 1年	誰にでも優しく、穏やかに接することができる。場に応じた挨拶や返事ができる。しかし、自分の持つ考えを相手に伝えることに自信がなく、自主的に活動をするのが苦手である。
C 1年	読書が好きで、学習の場面においては、積極的に自分の考えを発表することができる。しかし、状況の理解、環境の変化が苦手で、場に適した態度や声の大きさを選択することが難しい。

4 目標

- (1) 新しい環境や急な環境の変化にも落ち着いて対応することができる。
 〈2 心理的な安定 (1) 情緒の安定に関する事〉
- (2) かかわる人の範囲を広げながら、自己理解を深め、場に応じた行動をとることができる。
 〈3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事〉
- (3) 自信を持って相手と係ることが出来る表現方法を身に付け、コミュニケーションをとることができる。
 〈6 コミュニケーション (4) コミュニケーションの手段選択と活用に関する事〉
- (4) 場面に応じた行動や会話を行うことができる。
 〈6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーション〉

5 指導計画 (10 時間扱い)

	授 業 目 標	授業時数
1	・クラスの友達に自己紹介ができる。	1
2	・絵カードを使い、「この絵を説明してみよう。」ゲームを通して5W1Hを意識した状況説明を行うことができる。	3
③	・「おはなしすごろく①」を通して、カードの内容を他者に伝えることができる。 ・「おはなしすごろく②」を通して、質問に対し、落ち着いて対応することができる。	4 (本時 1/4)
4	・「おはなしすごろく②」を通して、カードの内容を他者に伝えることができる。 ・「おはなしすごろく②」を通して、質問に対し、適切に対応することができる。	2

特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項(1)(2)(7)(12)

6 本時の構成 (5 / 10)

(1) 本時の目標

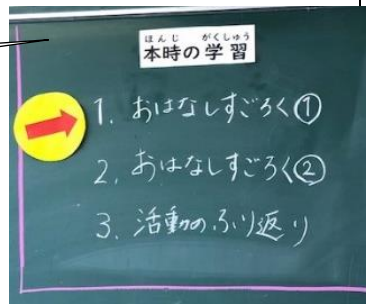
① 共通目標

- ・「おはなしすごろく①」を通して、自分の考えや思いを他者に伝えることができる。
- ・「おはなしすごろく②」を通して、他者からの質問に対し、落ち着いて対応することができる

② 個人目標

A 1年	・質問に対し、わからないときは「わかりません。」「教えてください。」と落ち着いて伝えることができる。
B 1年	・自分の考えや思いを相手が聞き取りやすい声の大きさ、速さで伝えることができる。
C 1年	・急な指名や質問に対しても、落ち着いて自分の考えや思いを相手に伝えることができる。

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点 (※指導の手立て *評価の観点) ○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問	備考
7分	1 あいさつをする。 2 ストレッチをする。 3 本時の活動を知る	○生徒の号令で挨拶を行う。 ※背筋を伸ばし、場に応じた声で挨拶ができるよう、必要に応じて声かけを行う。 ○生徒主導でストレッチ、ビジョントレーニングを行う。 ※リラックスして正しく行うことができるよう、必要に応じて声掛けを行う。 ○本時の活動の見通しをもつ。 ※本時の流れを黒板に板書し、声を掛けながら確認を行っていく。	・CDデッキで、係の生徒が音楽を流す。 ・流れを黒板の右端に板書して、常に確認できるようにする。
事例のポイント② 本時の流れを黒板へ端的に示し、生徒が、本時の学習において、見通しをもち安心して取り組むことができるようにする。			
32分	4 おはなしすごろく①「答えよう」に取り組む。 (16分)	○「おはなしすごろく①」を行う。 【進め方】 ・ジャンケンで順番を決める。 ・サイコロを振り、出た数だけコマを進める。 ・「カードを引く」のマスの止まったら、自分の山からカードを引く。 ・カードにある質問に答える。 ※自分の座席に着き、個々の目標を確認する。 ※生徒の実態に合った質問になるように、個別のカードを用意する。 ※ルールを理解したか確認するために、教師が一度手本を示す。 ※勝敗、順番にこだわる生徒へは、事前に適切な行動を確認するとともに、適切な行動がとれた場合は褒める。 ※カードは生徒によって次の例のとおり、内容を変えたものを用意する。	・個々の課題に応じたすごろくカードを準備する。 ・後で確認できるように、ICT端末に活動の様子を撮影する。
事例のポイント③ 生徒それぞれが達成感を感じることができるよう、個々の実態に合わせた内容をカードに記載する。			



【カードの例】

Aのカード 内容	あなたの好きな教科を教えてください。
Bのカード 内容	あなたの好きな教科とその理由を教えてください。
Cのカード 内容	あなたが好きな教科とその教科で最近学んだことを教えてください。

- ◎【A】固まってしまう、答えることができない。
 - ※【A】本時の目標を再確認する。
 - *【A】自分の考えや思いを伝えることができる、または「わかりません」「教えてください」を伝えることができる。
 - ◎【B】小さな声や早口で答えてしまう。
 - ※【B】本時の目標を再確認する。
 - *【B】自分の考えや思いを聞き取りやすい声の大きさ、速さで伝えることができる。
 - ◎【C】落ち着いて質問に答えることができる。
- ※それぞれの目標に対し、できたことを褒める。





5 おはなしすごろく②「質問しよう・答えよう」に取り組む。(16分)

○おはなしすごろく②を行う。

進め方

- ・ジャンケンで順番を決める。
- ・サイコロを振り、出た数だけコマを進める。
- ・「カードを引く」のマスに止まったら、山からカードを引く。
- ・カードに書いてある生徒に対し、書かれていることを質問する。
- ・指名された生徒は質問に答える。

- ※カードは生徒名および質問を記載する。
- ※質問の内容はおはなしすごろく①と同様とする。
- ※ルールを理解したか確認するために、教師が一度手本を示す。
- ※勝敗、順番にこだわる生徒へは、事前に適切な行動を確認するとともに、適切な行動がとれた場合は褒める。
- ※カードは生徒によって次の例のとおり、内容を変えたものを用意する。

		<p>【カードの例】 Cさんへ質問です。あなたが好きな教科とその教科で最近学んだことを教えてください。</p> <p>事例のポイント③ 生徒それぞれが達成感を感じることができるよう、個々の実態に合わせた内容をカードに記載する。</p> <p>◎【C】慌ててしまい、質問に答えることができない。 ※【C】本時の目標を再確認する。 *【C】気持ちを落ち着けて、自分の考えや思いを伝えることができる。 ※おはなしすごろく①同様、それぞれの目標に対し、できたことを褒める。</p>	
10分	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の活動を知る。</p> <p>8 あいさつをする。</p>	<p>○本時の活動の様子をICT端末で確認する。</p>  <p>事例のポイント④ ICT端末の録画機能を活用し、本時の様子や活動内容について、生徒に客観的な振り返りを行わせる。</p> <p>※良かったところをそれぞれ褒める。 自己理解が深まりつつある年齢のため、目標に正対した、より具体的な言葉を使う。</p> <p>評価の言葉がけ (例) 「Bさん、今日の発表、とても聞き取りやすかったよ。声の大きさ、話す速さもちょうどよかったね。思っていることがしっかりと伝わってきました。」 「Cさん、今日は急に指名されても、慌てずに堂々と自分のことを友達に伝えることができたね。」</p> <p>○自己評価を行う。 ※自己評価が難しい生徒には、再度ICT端末で一緒に確認を行う。 ○教員に注目して話を聞く。 ○生徒の号令で挨拶を行う。 ※背筋を伸ばし、場に応じた声で挨拶ができるよう、必要に応じて声かけを行う。</p>	<p>・撮影した活動の様子を視聴し、それぞれの目標に沿った活動になっていたか客観的に観察する。</p>

7 本時の評価

A	・困った時に「わかりません」「教えてください」と落ち着いて伝えることができたか。
B	・相手が聞き取りやすい声の大きさと速さで、自分の気持ちや思いを伝えることができたか。
C	・急に指名されても、落ち着いて質問に答えることができたか。

8 備考

- ・教室環境図

